BTC 第１１号 2022年5月

後援会たより

イムマヌエル
聖宣神学院後援会
http://btc.jpn.com/

教団の将来は神学院にある！

～目を覚ましていなさい～

会長　中山朝雄

「たゆみなく祈りなさい。感謝をもって祈りつつ、目を覚ましていなさい。」

コロサイ書 四章二節

ＢＴＣ後援会は、今から六年前の二〇一六年三月第七一次年会で、当時の教団代表藤本満先生によって「伝道者を養成する神学院にインマヌエルの将来がかかっていることを意識したい」と、二〇一九年の「学院創立七十周年」を前にして後援会設立構想が発表され具体的準備に入りました。翌年の第七二次年会時に設立総会が開かれ正式に発足し活動を開始しました。その後、全国の教会にＢＴＣと教会の橋渡し役また、献身者興起の祈りの推進役として「世話人」の推薦をお願いし全国の教会で世話人がその任を担い、お祈りと共にご支援を頂いております事、主にあって心より感謝いたします。

世話人をはじめ皆様のお祈りのゆえに当教団出身の若い献身者も与えられておりましたが、ここ最近の在籍者は一人と数名の通信生だけになり、キャンパスで学院生活を送る神学生は一人もおりません。また、残念ながら新入生は与えられませんでした。これは、今年同様少なくとも今後四年間は新任牧師が与えられないという事実を私共教団は突きつけられております。牧師の高齢化が進んでいる中、この現実をどの様に捉えるべきなのでしょうか？

私達を導いてくださる教会の牧師は、教団から任命によって派遣されてきますが、その献身者はどこから興されるのでしょうか。そうです、私達が所属している教会の中からです。教会の中から神様が献身者を興されるのです。その事をもう一度再認識して他人事としての献身者興起の祈りではなく、自分自身を含め身の回りの兄姉が献身者に導かれるように真剣に目を覚まして祈る時が来ております。今後更に神様が私達教団を福音宣教のために必要とされるのであれば必ずや必要な献身者を神様が私達の教会の中から興してくださるはずです。

私達はたゆみなくお祈りしておりますが、祈りが足りないのでしょうか？真実な祈りに神様は応答してくださるのではないでしょうか？この神様の沈黙は、何を示しているのでしょうか？様々な捉え方があると思いますが、この沈黙は共に苦しんでくださる神様が私達一人一人に、教会に、そして教団に対して謙遜に自らを問い直す恵みの機会を与えてくださっているのではないでしょうか。

「見よ。主の手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて聞こえないのではない。むしろ、あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仲けりとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。」イザヤ書五十九章一～二節

私達が主の前に用いられやすい状態であるかどうかを謙虚に今一度見直すことが必要ではないでしょうか。

二〇二一年第二二次総会時前代表の内山勝先生が私達の群れに提示された過去の神学院に端を発した所謂「ハラスメント問題」【次ページへ】

◆日々お祈りください

①献身に導かれる方が与えられるように。特に、若い方々がさらに加えられるように。
②神学生の学びと訓練が祝されるように。
③教師、職員、スタッフが恵みによって用いられるように。
④今後のキャンパス活用に主の導きがあるように。
⑤神学院の必要が豊かに満たされるように。
⑥後援会役員、推進委員、世話人が尊く用いられるように。
⑦後援会が経済的に自立していくことができますように。

目次

巻頭言 1
祈りの課題 1
世話人からひと言 2
北日本ブロック世話人会 ... 2
教師陣に、聞く 3
神学院での一日 3
卒業生からひと言 4
院長コラム 4
編集後記 4